

臨時株主総会 事前質問へのご回答

当資料では、2025年2月27日（木）開催の臨時定時株主総会にあたり、事前にいただいたご質問について以下のとおりご回答申し上げます（同じ内容を、上記臨時株主総会においてご回答申しあげました）。

質問1 鉛バッテリーの買取ブローカーといった産廃業界の権益に切込んでリサイクル材を回収するスキームについて、鉱石からの製錬より採算性があるとは思えない。また、環境ダストリサイクルは、エネルギーコストが高騰する中で採算性が得られるのか。「環境ダストリサイクル熔融設備の新設」も、計画時見積からの追加原価の激増により投資が困難ではないか。

ご回答 当社は既に使用済みの鉛バッテリーのリサイクル網を有しており、使用済みの鉛バッテリーを原材料とするリサイクル鉛事業は高い採算性を保っています。当社は、今後、鉛バッテリーメーカー及び回収事業者とも連携を模索しつつ、鉛バッテリーリサイクル網を更に強化し、取扱数量の拡大と採算の更なる改善に努めてまいります。環境ダストリサイクル事業、特に酸化亜鉛事業についても当社独自のノウハウや技術を蓄積し、長年高い収益性を維持しております。今後は、設備投資によってその生産を強化し、採算性や収益性を高めていく所存です。

質問2 ファンドにとっては非鉄金属の様な難しい業界の経営やハンドリングは容易ではなく、短期間で投資の回収と利益の最大化を計るために、会社の事業を細分化し、売却されてしまうのではないか。

ご回答 当社は、アドバンテッジパートナーズ様がサービスを提供するファンド及び辰巳商会様への第三者割当増資によって財務基盤の改善を図ります。アドバンテッジパートナーズ様と当社は十分な協議に基づき同じ目線で事業再生計画に臨んでおり、基盤事業及び成長事業の中長期目線での持続的な成長と抜本的な構造改革の実現に向け協力体制を構築しております。同社からは、非鉄金属業界における知見やノウハウを高く評価いただいております、そこに同社の事業再生案件に関する豊富な経験と見識を加えることで当社の事業再生を支援する方針であるとの説明を受けております。

質問3 現状の株価を踏まえると、経済産業省などと協議し、会社更生法や民事再生法の適用を第一優先すべきではないか。

ご回答 当社は、第三者割当増資の実施を決定するまで、様々な資本施策案や事業再生案を検討してまいりました。結果として、本総会へ付議いたしました第三者割当増資により資金を調達し上場を維持することが、株主の皆様をはじめとしたすべてのステークホルダーの利益を確保しつつ、当社の財務状況を抜本的かつ早期に改善・強化し、今後の持続的な成長を確実に遂行するための最善の方法であると判断いたしました。

質問4 このような状態になるまで放置した旧経営陣への責任追及はしないのか。また、これだけの状況で報酬額の総額の減額を付議しないのはなぜか。

ご回答 当社は、業績悪化に加え無配となったことを真摯に受け止め、旧経営陣により経営されていた2023年から現在に至るまで、社外および監査等委員を除く役員の報酬を減額しております。これらの役員に支払う報酬の個人別の金額は、独立社外取締役が過半数を占める報酬委員会による審議を経て、取締役会の決議により決定しており、足元の業績等を踏まえた金額となっております。従いまして、報酬金額の決定について適正な統制が機能していると判断し、役員報酬の総額の減額は不要であると考えております。

以 上